|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2019【ソリューション】様式1　**提案**　※3～4枚程度でわかりやすく記述してください。 | | | | | | | | | |
| プロジェクト名 | | プロジェクト名（e-Radに入力した研究開発課題名）を記入(30字程度) | | | | | | | |
| 研究開発期間 | | （　　　）年間（最大３年間） | | | | | | | |
| 研究代表者  氏名 | | （フリガナ） | | |  | | | | |
| （漢字等） | | |  | | | | |
| 所属機関 | |  | | | | | | | |
| 住所 | | 〒 | | | | | | | |
| 電話番号 | |  | | | | | FAX | |  |
| E-mail | |  | | | | | | | |
| 部局 | |  | | | | | | | |
| 職名 | |  | | | | | | | |
| 協働実施者  氏名 | | （フリガナ） | | |  | | | | |
| （漢字等） | | |  | | | | |
| 所属機関 | |  | | | | | | | |
| 住所 | |  | | | | | | | |
| 電話番号 | |  | | | | FAX | | |  |
| E-mail | |  | | | | | | | |
| 部局 | |  | | | | | | | |
| 職名 | |  | | | | | | | |
| 研究開発活動 | 社会課題・目的 | 1. 解決しようとする社会課題の概略 2. 2030年までに目指すべき社会の姿（ビジョン） 3. 提案される技術シーズを用いての社会課題への取り組みを希望する理由（主に『社会課題に取り組む当事者の代表』が記載）   各項目について200字程度にまとめてください。 | | | | | | | |
| （４）キーワード（自由記入） | | | | | | | |
| 方法 | 期間中の目標と達成 | （１）目標とその達成方法の概要（基になる研究開発成果は様式2.1参照）  ・研究開発支援を受ける期間中の目標を記載してください。  ・目標の達成方法について、具体的な実施項目と実施項目毎の期間・対象（人・組織・地域等）を箇条書きで示してください（実証試験の内容を含む）。  ・競合する研究開発の有無、競合がある場合はそれらと比較した本提案の基となる研究開発成果の差異を説明してください。  ・全体で300字程度にまとめてください。 | | | | | | |
| 資金 | 総額 | （千円） | | | | うち初年度 | （千円） |
| （２）研究開発費の主な使途と金額（千円） 主な業務項目別に概算金額を記載してください。 | | | | | | |
| 効果 | （１）研究開発活動の対象・受益者  社会課題の解決によってどのような便益が誰にもたらされるか、便益を享受する人々が社会課題解決のためどのような協力をするかを100字程度にまとめてください。 | | | | | | | |
| （２）プロジェクト終了後の継続性  プロジェクト終了後に『社会課題に取り組む当事者の代表』がどのように研究開発活動を継続するのかを簡潔に記載してください。 | | | | | | | |
| （３）本プログラムが果たす役割 本プログラムの支援がない場合の問題について簡潔に書いてください。 | | | | | | | |
| 協力組織 | ・  ・  プロジェクトに協力する関与者・組織を記載してください。 | | | | | | | |

【備考】

2019【ソリューション】様式2.1　**研究開発プロジェクトの基となる技術シーズ（１）**

（1枚以内にまとめてください。技術シーズが既にあることが応募要件となっていますので簡潔かつわかりやすく記載してください。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 技術シーズの 名称（概要、課題名） |  | | |
| 研究  実施者 |  | 研究者  番号 |  |
| 所属  役職 |  | 研究  分野 | ・自由記入 |
| 提供を受けた  公的資金名 |  | | |
| 報告書、  URLなど | ・URLが無い場合は、掲載された雑誌、特許、本などを明記してください。  ・別途、コピー等の送付をお願いする場合もあります。 | | |
| 知的財産権  の有無 | ・出願番号などを記入してください。 | | |
| 使用  許諾権 | ・技術シーズの所有者や特許権者から、研究開発活動に関する使用許諾を得ているか、まだ得ていない場合はその見込みや進捗状況を記載してください。 | | |
| 参考  文献 |  | | |
| 研究代表者  (協働実施者)  との関係 |  | | |
| 技術シーズの概要 | ・技術シーズの概要について記述してください。  ・様式2.2と併せて記入してください。  　＜ポイント＞  ・専門家以外にも分かるように平易な文章で記述してください。  ・必要に応じて、図表を用いても構いません。  ・プロトタイプの試作やフィールドテストの経験があれば記載してください。 | | |

2019【ソリューション】様式2.2　**研究開発プロジェクトの基となる技術シーズ（２）**

（1枚以内にまとめてください）

|  |  |
| --- | --- |
| 技術シーズ の概要（２） | ・様式2.1　研究開発成果の概要（1）に続けてこの範囲で記入してください。 |

2019【ソリューション】様式3.1　**研究開発プロジェクトの計画（１）**　　　（1枚以内にまとめて書いてください。）

**１．計画表**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大項目 | 中項目 | 2019年度 | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 |
| 2020.3 | 2020.9 | 2021.3 | 2021.9 | 2022.3 | 2022.10 |
| Ａ | １  ２  ３  ４ |  | **マイルストーン①** | 具体的に記述  収拾策 | 主となる計画 |  |  |
| Ｂ |  |  |  |  |  |  | **マイルストーン②** |
| Ｃ | １  ２  ３ |  |  |  |  | ？ |  |
| Ｄ |  | ↑  年次報告  （次年度計画） |  | ↑  年次報告  （次年度計画） |  |  | ↑  終了報告書 |

↑

年次報告

（次年度計画）

計画表中の記載は例示です。

背景と研究開発支援を受ける期間中の目標も踏まえて、上記の計画表（概要）を作成してください。大項目は、「様式１ 提案」の「期間中の目標と達成」に記載した実施項目と同じにしてください。

　＜ポイント＞

* PDCA（特にC（中間評価）の時期・観点・方法等）、KPIを考慮して、主となる計画を記述してください。
* 四半期、上下期、年度などの区切りよりも、活動の進捗を考慮してスケジュールを作成してください。
* 具体的なマイルストーン（時期、定量的な評価項目）を記入してください。
* 達成できなかった場合のリスクヘッジである収拾策を記述してください。
* 研究開発開始後（令和元年11月以降）速やかにプログラム総括等による研究開発実施場所訪問（サイトビジット）を行いますので、計画表にこのサイトビジットの予定を明記してください。
* 研究開発進捗の中で、プログラム総括等によるサイトビジットを希望する時期を計画表に記載してください。年１～２回が目安です。

2019【ソリューション】様式3.2　**研究開発プロジェクトの計画（２）**　  
（2枚以内にまとめて書いてください。）

**２．計画表の説明**

* 様式3.1の計画表で示した実施項目（大項目および中項目）について、資金計画との整合性を読み取れるように、実施内容を具体的に記載してください。
* 各実施項目について、研究開発に取り組む主体（「研究代表者」、「協働実施者」、「研究代表者及び協働実施者」、「コーディネーター」、「その他（氏名）」、など）を記載してください。
* マイルストーンについても、時期を明記し、できるだけ定量的に説明してください。
* PDCAやKPI、主となる計画とリスクヘッジである収拾策を記述してください。

2019【ソリューション】様式3.3　**研究開発プロジェクトの計画（３）  
１．資金計画**（1枚以内にまとめて書いてください。）

単位：千円

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 1年度 (2019.11～2020.3) | 2年度 (2020.4～2021.3) | 3年度 (2021.4～2022.3) | 最終年度 (2022.4～2022.10) | 合計 |
| 研究開発費  (直接経費) | 物品費 |  |  |  |  |  |
| 旅費 |  |  |  |  |  |
| 人件費・謝金 |  |  |  |  |  |
| その他 |  |  |  |  |  |
| 合計 | |  |  |  |  |  |

主要費用項目の説明：

* 主要費用項目の使途目的を説明してください（単位：千円）。特に全経費に占める割合の大きいものは研究開発活動上の必要性がわかるように記載してください。
* 2019年度と最終年度は、その研究開発期間に応じて研究開発費を配分してください。なお、研究開発期間は2023.3（2022年度末）まで延長することが可能です（ただし、最終年度の秋以降は評価プロセスが並行します。また、延長分の予算措置は行いません）。
* 間接経費は、原則直接経費の30％を上限として措置されます。本表への記載は不要です。
* 詳細は、「5.5 研究開発費」をご参照ください。

2019【ソリューション】様式3.3　**研究開発プロジェクトの計画（３）**（２．３．あわせて1枚以内にまとめて書いてください。）

**２．研究開発費（直接経費）の内訳（2019年度）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 費目 | 品名 | 積算根拠（単価・個数等） | 概算額（千円） |
| 直接経費 | 物品費  旅費  人件費・謝金  その他 | ソフトウェア  国内出張  技術補助 | @16,000×1個  @20,000×10回  @1,000円/時間×6時間/日×20日/月×5月 | 16  200  600 |

2019年度（5ヶ月分）の主な使途について、内訳を記入してください。

**３．特記事項**

* その他、費用面で特記すべき項目を記入してください。

2019【ソリューション】様式4.1　**研究開発プロジェクトの組織体制（１）  
１．研究代表者、協働実施者**（2枚以内にまとめて書いてください。）

**（１）研究代表者**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研究代表者 | 氏名（フリガナ）： | 生年月日（西暦）： |
| 所属機関／組織名： | |
| 部局： | 職名： |
| 〒　　　　　　　住所： | |
| 連絡先（TEL 、FAX 、 E-mail） | |
| 緊急連絡先（携帯電話など）： | |

**研究代表者の略歴：**・研究開発を推進する上で必要十分な経験を有するかの判断材料とします。

**（２）協働実施者**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 協働実施者 | 氏名（フリガナ）： | 生年月日（西暦）： |
| 所属機関／組織名： | |
| 部局： | 職名： |
| 〒　　　　　　　住所： | |
| 連絡先（TEL 、FAX 、 E-mail） | |
| 緊急連絡先（携帯電話など）： | |

**協働実施者の略歴：**・研究開発を推進する上で必要十分な経験を有するかの判断材料とします。

**（３）研究代表者と協働実施者のこれまでの関係**

・研究代表者と協働実施者がこれまで共同で活動した実績などを記載してください。

2019【ソリューション】様式4.2　**研究開発プロジェクトの組織体制（２）**

**２．研究開発プロジェクト組織図**（1枚以内にまとめて書いてください。）



* 上図を参考にプロジェクト全体の組織図を作成してください。
* 研究代表者が協働実施者を兼務する場合は、該当グループは削除してください。兼務する場合は「4.5.2 提案者の要件」「第8章 提案公募Q&A」も参照ください。
* 研究開発の基となる技術シーズを創出した者が誰か分かるように、研究グループに記入してください。当該の者とプロジェクト内の者が同一の場合は、研究グループの項目にも同一の氏名を記入してください。
* 「第5章 社会技術研究開発における研究開発の推進等について」、「第8章 提案公募Q&A」も参照ください。

2019【ソリューション】様式4.2　**研究開発プロジェクトの組織体制（２）**

**３．研究開発組織の位置づけ**（1枚以内にまとめて書いてください。）

* 研究開発に関わる全体の組織の中での各グループ、組織の位置づけを説明してください。
* 海外の機関に所属する方が、海外の機関を拠点に主たる実施者としてプロジェクトに参加される場合、その理由を記載してください（「5.10 海外の機関に所属する方が主たる実施者として参画する場合」「第8章 提案公募Q&A」参照）。
* ネットワーク構築とコーディネート活動の状況についても説明してください。

2019【ソリューション】様式5　**他制度での助成等の有無**（1枚程度にまとめてください。） **研究代表者（提案者）名：**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **制度名** | **課題名(プロジェクト名)** | **期間** | **①研究費　　（期間全体）**  **②研究費　　（2019年度）**  **③研究費　　（2020年度）**  **④研究費　　（2021年度）**  **⑤研究費　　（2022年度）** | | **役割**  **（代表/分担）** | **ｴﾌｫｰﾄ（％）** |
| SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム | （本提案） | 2019  ～  2022 | ① | 28,000千円 | 研究代表者 | 30 |
| ② | 4,500千円 |
| ③ | 10,000千円 |
| ④ | 8,000千円 |
| ⑤ | 5,500千円 |
| 科学研究費補助金  基盤研究(B) | ○○○○○○○○○○  ○○ | 2019  ～  2021 | ① | 6,000千円 | 代表 | 10 |
| ② | 2,000千円 |
| ③ | 2,000千円 |
| ④ | 2,000千円 |
| ⑤ | 0千円 |
| （申請中）  ○○財団  助成金事業 | ○○○○○○○○○○  ○○ | 2019 | ① | 1,000千円 | 分担 | 5 |
| ② | 1,000千円 |
| ③ | 0千円 |
| ④ | 0千円 |
| ⑤ | 0千円 |

**協働実施者（提案者）名：**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **制度名** | **課題名(プロジェクト名)** | **期間** | **①研究費　　（期間全体）**  **②研究費　　（2019年度）**  **③研究費　　（2020年度）**  **④研究費　　（2021年度）**  **⑤研究費　　（2022年度）** | | **役割**  **（代表/分担）** | **ｴﾌｫｰﾄ（％）** |
| SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム | （本提案） | 2019  ～  2022 | ① | 28,000千円 | 分担 | 30 |
| ② | 4,500千円 |
| ③ | 10,000千円 |
| ④ | 8,000千円 |
| ⑤ | 5,500千円 |
| 科学研究費補助金  基盤研究(B) | ○○○○○○○○○○  ○○ | 2019  ～  2021 | ① | 6,000千円 | 代表 | 10 |
| ② | 2,000千円 |
| ③ | 2,000千円 |
| ④ | 2,000千円 |
| ⑤ | 0千円 |
| （申請中）  ○○財団  助成金事業 | ○○○○○○○○○○  ○○ | 2019 | ① | 1,000千円 | 分担 | 5 |
| ② | 1,000千円 |
| ③ | 0千円 |
| ④ | 0千円 |
| ⑤ | 0千円 |

**＜各助成金の背景説明＞**

* 研究代表者と協働実施者の分のみ記述してください（兼務する場合は片方のみ）。
* 採択中、あるいは申請中の他制度の助成と本プログラムとの関係、配分などを説明してください。
* 本プログラムと関係があれば、中断された助成も含めて記入してください。
* プログラム名、制度名、代表／分担などの役割を記入してください。
* メンバーが重複する場合には、その旨も記入してください。

2019【ソリューション】様式6

**事業構想（シナリオ）**　（様式6全体で15枚を超えないように記載してください）

グレー網がけ部分は記入上の注意事項です。提出の際には削除してください。

**１．目指すべき姿（ビジョン）**

**（１）具体的なビジョン**

｢社会課題に取り組む当事者の代表」が描く独自の目指すべき姿を具体的に記述してください。

5W1Hで記述してください。誰が、どの組織が、どの組織の協力で、どの地域において、どのような受益者に対して、何を実施するかなど具体的に記述してください。

**（２）ビジョンを実現することによる価値創造**

以下の項目②－１、②－２、②－３において、ビジョンを実現することで創造される価値を環境、社会および経済の側面からそれぞれ記述してください。「（１）具体的なビジョン」と重複した記述があっても構いません。

また、それぞれの価値創造をめざすにあたり優先するSDGsの目標（ゴール）や169のターゲット（SDGsの趣旨から、複数課題の同時解決をめざす視点を踏まえてください）と、相反しないように留意するSDGsゴールや169のターゲットを記載してください。

**②－１　環境面**

**・ビジョンを実現することで創造される価値：**

例えば、省エネルギー、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、水や大気の環境、などの切り口が想定されます。

**・優先するSDGsのゴールやターゲット：**

**・相反しないように留意するSDGsのゴールやターゲット：**

**②－２　社会面**

**・ビジョンを実現することで創造される価値：**

例えば、防災、健康、少子高齢化への対応、社会的連帯、などの切り口が想定されます。

**・優先するSDGsのゴールやターゲット：**

**・相反しないように留意するSDGsのゴールやターゲット：**

**②－３　経済面**

**・ビジョンを実現することで創造される価値：**

例えば、雇用創出、新産業創出、社会的コストの低減、などの切り口が想定されます。

**・優先するSDGsのゴールやターゲット：**

**・相反しないように留意するSDGsのゴールやターゲット：**

**（３）SDGsの総合的な活用**

SDGｓの17のゴールや169のターゲットは相互に関連するものが多く、ゴールやターゲットを組み合わせた統合的な取り組みが求められます。以下の③－１、③－２の項目において、ビジョンを実現するために特に優先する目標群や、ビジョンの実現により相反しないように（トレードオフにならないように）留意する目標群等を記述してください。

**③－１　特に優先する目標群**

上述の「（２）ビジョンを実現することによる価値創造」に記載された「優先するSDGsのゴールやターゲット」を基に、ビジョンを実現するために特に優先して活用する目標群（ゴール）について記述してください。ゴールだけでなくターゲットを用いても構いません。記載に当たっては、SDGsの趣旨から、複数課題の同時解決をめざす視点を踏まえてください。

**③－２　相反しないように留意する目標群**

上述の「（２）ビジョンを実現することによる価値創造」に記載された「相反しないように留意するSDGsのゴールやターゲット」を基に、ビジョンを実現することで相反してしまう懸念のある目標群（ゴール）とその対策について検討し、提案者の考えを記述してください。ゴールだけでなくターゲットを用いても構いません。

**（４）受益者**

**④－1　ビジョンにおける受益者**

ビジョンを実現することによる受益者は誰であるのか、現状では誰が取り残されているのか、さらに、ビジョンは包摂性を満たしているか（「誰一人取り残さない」という理念に沿っているか）、について記述してください。

**④－2　受益者と共有する価値**

受益者と価値を共有することにより、受益者はどのような満足を得ると想定されるか（受益者側の価値とは何か）を記述してください。

**④－3　受益者との価値共有の方法**

ビジョンを実現することで創造される価値は、誰が何をすることで、どのように受益者と共有されるのかを記述してください。

**２．解決策**

**（１）社会課題**

ビジョンを実現するために、何が問題で、何に取り組むべきであるのか、その社会課題を記述してください。

**（２）社会課題の解決**

**②－１　社会課題を解決する方法、技術シーズの活用法**

ビジョンを実現するためにどのように取り組むのか、その方法について記述してください。さらに、その中で技術シーズがどのように活用されるのかについても記述してください。

**②－2　研究代表者と協働実施者**

研究開発プロジェクト期間中および期間終了後に、研究代表者と協働実施者はどのように役割を分担するか。研究代表者と協働実施者はどのような責任を負うのか。

**②－3　コーディネーター**

受益者を含むステークホルダー間を調整し、研究開発の推進に貢献するコーディネート活動を行う人物を明記してください。研究代表者や協働実施者以外の人物でも構いません。

**②－4　解決策を定着させる担い手**

現在取り組んでいる地域において、解決策は誰が定着させるのか、その担い手を明記してください。

**②－5　他地域への展開の担い手**

解決策を誰が他地域に展開するのか、その担い手を明記してください。

**②－6　若手研究者等の登用（任意）**

人材育成の観点より、研究開発プロジェクトへの若手研究者の登用も期待されます（必須ではありません）。もし、若手研究者・実施者の登用法に工夫があれば、その内容を記述してください。

**（３） 解決策の優位性**

**③－1　受益者側から見た優位性**

受益者は他の解決策ではなく、申請者の解決策を選ぶのはなぜか。他と何が異なるのか記述してください。優位性は技術シーズの独自性ではなく、解決策の効果の観点から示してください。

**③－2　優位性の根拠**

他の取り組みに対する優位性を示してください。現時点で根拠が不足している場合は、今後どのように示す予定か記載してください。

**③－3　展開の可能性**

差別化の内容は特定の地域のみに通用するものではなく、地域性を踏まえた上で全国、さらには海外を含めた他地域に普及・展開する可能性があることを示してください。

**（４）社会課題に取り組むための資源**

**④－1　すでに得られている資源**

すでに得られている資源はどのようなもので、どのように活用するかを記述してください。資源の例として、人材、実施体制、施設、設備、活動資金、知的財産、情報などが想定されます。

**④－2　現時点で不足している資源**

現時点で不足しており、これから得ようとする資源はどのようなもので、どのように活用するのかを記述してください。

**④－3　協働実施者が研究者から受け取る技術シーズ**

協働実施者が研究者から受け取る技術シーズはどのような内容であるのか記述してください。技術シーズの種別の例として、知財、ノウハウ、マニュアル、データ、人材、人脈などが想定されます。

**④－4　必要な資金**

現在取り組んでいる地域にて解決策を定着させるために必要な資金を、内訳を含めて記載してください。概算値でかまいません。

**④－5　資金調達**

現在取り組んでいる地域にて解決策を定着させるために、資金をどのように調達するのか、誰から調達する想定なのか記述してください。

**３．解決策の定着・他地域への展開の実現（最終目標）の筋書き**

・研究代表者と協働実施者がソリューション創出フェーズにおいて作成する事業計画を実行することで、解決策の定着、他地域への展開に至ると考えられます。その段階へ至るまでの筋書き、および筋書きに従って実施することで期待される姿を、具体的に記述してください。

・具体的には「誰が、どの組織が、どの組織の協力で、どの現場に対して、どのような最終受益者に対して、何をどのように実施するか、どのような社会制度化を実現するか」「いつまでに何をするか」などを記述してください。

＜例＞

研究開発プロジェクト終了後１年目

① 取り組み

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

② 上記の取り組みにより期待される姿

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

研究開発プロジェクト終了後３年目

① 取り組み

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

② 上記の取り組みにより期待される姿

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

研究開発プロジェクト終了後●年目

① 取り組み

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

② 上記の取り組みにより期待される姿

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

・

・

・

**４．研究開発プロジェクトの目標**

・「３．解決策の定着・他地域への展開の実現（最終目標）の筋書き」に対して、ソリューション創出フェーズでの研究開発プロジェクトの終了時には何をどこまで達成するのか、具体的に記述してください。

・具体的には、「誰が、どの組織が、どの組織の協力で、どの現場に対して、どのような受益者に対して、何をどのように実施するか」などを記述してください。

・定量的な目標設定が可能なものについては、可能な限り提示してください。